

第2期野洲市国民健康保険保健事業実施計画(データヘルス計画)・第3期野洲市特定健康診査等実施計画の中間評価について

1.健康課題に対する目的・目標と保健事業実施計画(データヘルス計画 P38)

目的

市民がいそいそと充実した毎日を送ることができる。

目標

- 1.中長期目標:健康寿命を延伸するために、生活習慣病の発症と重症化を防ぐ。
- 2.短期目標:自分の健康に関心を持つ人が増える。

野洲市が抱える健康課題

- 1.糖尿病が多く、コントロールが悪化により透析にすすむリスクが高いことが推察される。
- 2.特定健診においてメタボ該当者予備群が多く、心血管疾患発症の危険性が高まっている。
- 3.がん検診受診率及びCOPD検診の受診率が低く、医療費が高いことから早期発見に繋がっていない。

2.野洲市の健康課題に対応した目標項目の状況

	目標	目標値	現状値					
			第1期データヘルス計画			第2期データヘルス計画		
			H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	
中長期目標	糖尿病を起因とする新規透析導入患者の人数の増加を抑制する。	29人以下	29人	29人	28人	25人	26人	
	糖尿病性腎症重症化予防事業においてHbA1cの参加時点から「改善・維持」が増加する。	80%以上	85.70%	64.30%	84.20%	100%	69.20%	
	メタボ該当者・予備群の割合の維持。	男性 45.3% 女性 17.3%	男性 45.3% 女性 17.3%	男性 47.6% 女性 17.1%	男性 47.9% 女性 18.7%	男性 49.2% 女性 18.9%	男性 49.7% 女性 18.4%	
	HbA1cの健診有所見(男女)の割合が減る。	男性 57.9% 女性 51.5%	男性 60.9% 女性 60.3%	男性 51.7% 女性 46.8%	男性 58.3% 女性 57.6%	男性 56.1% 女性 54.5%	男性 53.6% 女性 52.4%	
	男性の特定健診受診者の喫煙者の割合が減る。	男性 22%以下	男性 24.8%	男性 24.2%	男性 24.1%	男性 22.2%	男性 21.5%	
	収縮期血圧の健診有所見者の割合が減る。	男性 45% 女性 45%	男性 51.7% 女性 50.3%	男性 52.1% 女性 49.5%	男性 50.7% 女性 50.7%	男性 47.9% 女性 49.7%	男性 49.2% 女性 50.5%	
	運動習慣がある人の割合が増える。	男性 43.1% 女性 38.2%	男性 40.1% 女性 35.2%	男性 43.8% 女性 39.6%	男性 41.6% 女性 36.5%	男性 40.6% 女性 36.5%	男性 42.1% 女性 38.9%	
	喫煙率の減少	男性 25.0% 女性 3.5%	男性 26.4% 女性 3.6%	男性 25.6% 女性 4.0%	男性 24.7% 女性 4.2%	男性 22.9% 女性 4.1%	男性 22.3% 女性 3.1%	
短期目標	特定健診の新規受診者数が増える。	773人	526人	443人	460人	423人	382人	
	若年層(40~50歳代)で特定健診を受ける人の割合が増える。	40歳代 男性 25.0% 女性 35.0% 50歳代 男性 30.0% 女性 40.0%	40歳代 男性 23.7% 女性 31.8% 50歳代 男性 27.1% 女性 37.6%	40歳代 男性 23.0% 女性 26.4% 50歳代 男性 25.1% 女性 36.7%	40歳代 男性 22.9% 女性 26.6% 50歳代 男性 24.4% 女性 33.3%	40歳代 男性 22.9% 女性 28.5% 50歳代 男性 26.7% 女性 33.8%	40歳代 男性 22.4% 女性 25.9% 50歳代 男性 25.9% 女性 34.8%	
	特定保健指導終了率が増加する。	35%以上	29.9%	23.8%	30.9%	39.7%	29.8%	
	受診勧奨判定値以上の者の医療機関受診率が増える。	60%	51.35% (対象者111人、 受診者 57人)	62.63% (対象者182人、 受診者114人)	60.74% (対象者107人、 受診者 65人)	45.90% (対象者 61人、 受診者 28人)	56.86% (対象者 51人、 受診者 29人)	
	喫煙相談の実施者数が増える。	20人	12人	21人	37人	41人	38人	
	がん検診の受診者が増える(胃がん)。	659人	525人	408人	525人	590人	692人	
	がん検診の受診者が増える(大腸がん)。	1318人	1884人	1060人	1421人	1554人	1618人	
	がん検診の受診者が増える(肺がん)。	482人	H28から開始	231人	398人	420人	488人	
	がん検診の受診者が増える(子宮頸がん)。	1027人	972人	759人	987人	1098人	1224人	
	がん検診の受診者が増える(乳がん)。	746人	658人	511人	542人	681人	925人	
COPD検診の受診者が増える。	15%	H28から開始	9.7%	9.9%	16.6%	18.3%		
共通目標	特定健診受診率	特定健診受診率	60%以上	53.3%	51.7%	50.5%	49.6%	48.3%
		継続受診割合	75%以上	78.7%	77.6%	76.4%	76.4%	76.3%
		新規受診者割合	19%以上	12.9%	11.5%	12.5%	12.0%	11.5%
		3年連続未受診者割合	40%以下	31.2%	28.9%	29.9%	30.7%	31.9%
		40歳代の健診受診率	19%以上	27.09%	24.44%	24.43%	25.22%	23.85%
		50歳代の健診受診率	28.5%以上	32.71%	30.99%	28.96%	30.34%	30.17%
		特定健診未受診者かつ医療機関受診なし者の割合	35%以下	39.4%	39.8%	38.7%	41.2%	39.6%
	情報提供実施率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	特定保健指導実施率	60%以上	29.9%	23.8%	30.9%	39.7%	29.8%	
	受診勧奨判定値以上の者の医療機関受診率	受診判定値以上の者の医療機関受診率	60%以上	51.35% (対象者111人、 受診者 57人)	62.63% (対象者182人、 受診者114人)	60.74% (対象者107人、 受診者 65人)	45.90% (対象者 61人、 受診者 28人)	56.86% (対象者 51人、 受診者 29人)
上記のうち、別に定めるハイリスク者の勧奨・再勧奨実施		100%	0%	0%	0%	0%	100%	
上記のうち、別に定めるハイリスク者の医療機関受診率		80%以上	52.33% (対象者107人、 受診者 56人)	63.47% (対象者167人、 受診者106人)	63.00% (対象者100人、 受診者 63人)	48.00% (指導人数50人、 受診者 24人)	58.33% (指導人数48人、 受診者 28人)	

3.野洲市の健康課題に対応した目標項目の事業内容、評価

	目 標	事業実施内容	評 価
中 長 期 目 標	糖尿病を起因とする新規透析導入患者の人数の増加を抑制する。	糖尿病重症化予防事業	目標を当初計画時のH27の実績値である29人以下に抑制することを目標とするため「新規」の文言を削除する。
	糖尿病性腎症重症化予防事業においてHbA1cの参加時点から「改善・維持」が増加する。	糖尿病重症化予防事業	目標達成している年度はあるが、実現可能な目標を設定したため変更せず
	メタボ該当者・予備群の割合の維持。	特定保健指導、生活習慣病予防セミナー	目標に向け今後も取り組む
	HbA1cの健診有所見(男女)の割合が減る。	特定保健指導、生活習慣病予防セミナー	目標達成している年度はあるが、実現可能な目標を設定したため変更せず
	男性の特定健診受診者の喫煙者の割合が減る。	COPD検診、喫煙相談	目標達成している年度はあるが、実現可能な目標を設定したため変更せず
	収縮期血圧の健診有所見者の割合が減る。	特定保健指導、生活習慣病予防セミナー	目標に向け今後も取り組む
	運動習慣がある人の割合が増える。	健康づくりの情報の周知・啓発、健康相談、健康を考える会、特定保健指導、生活習慣病予防セミナー	目標達成している年度はあるが、実現可能な目標を設定したため変更せず
	喫煙率の減少	喫煙相談	目標達成している年度はあるが、実現可能な目標を設定したため変更せず
短 期 目 標	特定健診の新規受診者数が増える。	特定健康診査、生活習慣病健診、特定健康診査受診率向上、健康づくりの情報の周知・啓発、健康相談	目標値と実績値がかけ離れているため見直す
	若年層(40～50歳代)で特定健診を受ける人の割合が増える。	特定健康診査、生活習慣病健診、特定健康診査受診率向上、健康づくりの情報の周知・啓発、健康相談	目標に向け今後も取り組む
	特定保健指導終了率が増加する。	特定保健指導、生活習慣病予防セミナー	目標達成している年度はあるが、実現可能な目標を設定したため変更せず
	受診勧奨判定値以上の者の医療機関受診率が増える。	特定健診受診後要医療対象者受診勧奨事業	目標達成している年度はあるが、実現可能な目標を設定したため変更せず
	喫煙相談の実施者数が増える。	COPD検診、喫煙相談	目標達成している年度はあるが、実現可能な目標を設定したため変更せず
	がん検診の受診者が増える(胃がん)。	健康づくりの情報の周知・啓発、健康相談、健康を考える会、がん検診	目標達成している年度はあるが、実現可能な目標を設定したため変更せず
	がん検診の受診者が増える(大腸がん)。	健康づくりの情報の周知・啓発、健康相談、健康を考える会、がん検診	目標達成している年度はあるが、実現可能な目標を設定したため変更せず
	がん検診の受診者が増える(肺がん)。	健康づくりの情報の周知・啓発、健康相談、健康を考える会、がん検診	目標達成している年度はあるが、実現可能な目標を設定したため変更せず
	がん検診の受診者が増える(子宮頸がん)。	健康づくりの情報の周知・啓発、健康相談、健康を考える会、がん検診	目標達成している年度はあるが、実現可能な目標を設定したため変更せず
	がん検診の受診者が増える(乳がん)。	健康づくりの情報の周知・啓発、健康相談、健康を考える会、がん検診	目標達成している年度はあるが、実現可能な目標を設定したため変更せず
COPD検診の受診者が増える。	健康づくりの情報の周知・啓発、健康相談、健康を考える会、COPD検診	目標達成している年度はあるが、実現可能な目標を設定したため変更せず	

4.実績と評価

実績	評価
①特定健診受診率向上	
○受診率の低い若年層(40～50歳代)に、インセンティブを実施。 R1: 血圧計(5人)、体脂肪計(88人) R2: 野洲市スポーツセンター利用券	○R1: 十分な周知ができず、効果が表れなかった。 R2: コロナ感染予防のため中止 ⇒施設との連携を充実し、プレゼント内容、周知方法を改善。
○過去5年間の特定健診受診歴やレセプト情報から個人の特性に応じてナッジ理論を利用した勧奨ハガキを送付。	○健診委託料の請求件数が前月比2.7倍となったほか、問い合わせや受診券の再発行件数が増加したことから、勧奨回数や勧奨内容を変えて引き続き実施。
○定期的な広報による周知	○勧奨ハガキ発送の時期と合わせて広報。
②糖尿病性腎症重症化予防指導事業	
○R1: 勧奨に対する無関心層(希望調査未回答者)に対し、かかりつけ医からの再勧奨を協力していただいた。	○当初参加予定人数(30人)に達し、終了率も向上。 ⇒参加者におけるHbA1cの維持・改善率が下がったことから、対象者の掘り起こしはできたと考えられる。
○R2: 当初通知に、かかりつけ医からの推薦状(直筆サイン入り)を同封。	○当初通知時点で当初参加予定人数に達した。 ⇒かかりつけ医からの勧奨効果が大きいため、次年度以降も継続。
③異常値放置者への受診勧奨	
○過去の特定健診結果とレセプト情報から、受診勧奨判定値(*)超過者のうち、未受診者に対し、医療機関への受診勧奨 ⇒R1～返送率向上のため、再勧奨実施。	○再勧奨後のレセプト情報を確認した結果、受診率が向上 ⇒電話勧奨だけではなく、訪問等による指導内容を検討。

(*)受診勧奨判定値: 平成24年度厚生労働科学研究による「健診結果とその他必要な情報の提供文例集を参照

5.評価委員会での助言

「特定健診受診率の向上」・・・新規受診者数が目標に達していない。

①特定健診未受診者のうち、「医療機関に通院しているが特定健診を受けていない人」が22.5%(再勧奨委託業者からの期中報告より)あった。

⇒市民の健康状態把握のためのデータ蓄積にもなるため、かかりつけ医からの受診の後押しが必要。

(例)・定期受診時の検査を、特定健診でうけてもらう。

・保健所から、医療機関への投げかけをしてもらう。

②短期目標の「特定健診の新規受診者数が増える。」については、「773人」という絶対値ではなく、「新規受診者割合19%」に変更。

③中長期目標の【糖尿病を起因とする新規透析導入患者の人数の増加を抑制する】については、目標を当初計画時のH27の実績値である29人以下に抑制することを目標とするため「新規」の文言を削除する。

特定健診

(実績)

- ・R2より国保連合会と委託契約し、人工知能を用いてデータ分析し、グループ毎にメッセージ(はがき)を送っている。
- ・受診率の低い40～50代の受診者から抽選で賞品をプレゼントをすることを実施。
- ・広報における健診啓発。

(評価)

- プレゼントについては、十分な周知ができていなかったこともあり、効果は低かった。令和3年度については、受診券にチラシを同封することや商品を変えることを予定しており、取組内容を改善している。
- はがきについては、R2の受診率が出てないため結果はわからないが、はがき発送後の電話や窓口での反応が大きく引き続き取り組む予定。

糖尿病性腎症重症化予防

(実績)

- ・参加者を増やすために、返送がなかった対象者に対してかかりつけ医より 勧奨していただくことで、参加を促した。
- ・R2より対象者に対する当初通知にかかりつけ医からの推薦状を同封することで参加を促した。

(評価)

- かかりつけ医からの勧奨は、大変効果があり当初予定していた参加人数に達した。
- 推薦状による勧奨の効果も大きく、対象者からの返送の段階で当初予定していた参加人数に達した。

医療機関への受診勧奨

(実績)

- ・R1より対象者への再勧奨(通知文)を行った。

(評価)

- 再勧奨することで返送率が大きく上がった。
- 日中に電話に出られない方等いるため、指導内容を電話や面談だけでなく、訪問等も今後検討する。

《評価委員会での評価・助言について》

- (1) 短期目標の【特定健診の新規受診者数が増える。】については、「773人」という絶対値ではなく、「実績値の19%」にする。
- (2) 医療機関に通院等しているが特定健診を受けてない人の割合が22.5% (キャンサースキャンの期中報告書より)ありについて、この人たちを受診に繋げていく方法。
→対策としてはかかりつけ医から特定健診の受診を促してもらうことが効果的。
 - ① 医師の意識改革が必要。(市民の健康状態の把握のためにデータ蓄積が必要であることを伝えていく)
- (3) 短期目標の【糖尿病を起因とする新規透析導入患者の人数の増加を抑制する】について、目標値を目標作成時のH29の実績値より増やさないという意味より新規の数ではなく総数にする。